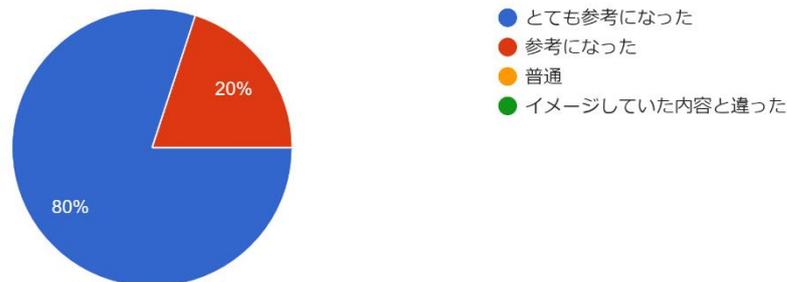


第11回意見交換会参加後アンケート結果

2022.9.7

今回のテーマについていかがでしたか。

10件の回答



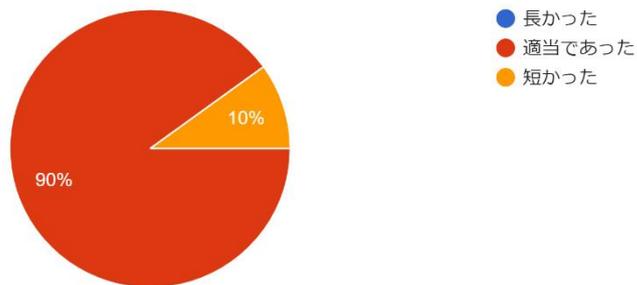
特に参考になった内容は何ですか。10件の回答

- ロービジョンケアについて、何も知らなかったが、話を聞くだけでもケアのひとつになると知った。当院では、ロービジョンケアプロジェクトを立ち上げ準備をはじめたところ。本や文献を参考に当院にあったロービジョンケアの流れを模索していましたので、このタイミングで今回のお話を聞くことができ、大変参考になりました。すでにロービジョンケアに取り組まれている施設の方から心理的、精神的援助についてお話しがあり、医療は心のケアを行い、一步を踏み出せるようにしていきたいと思いました。患者さんとの距離感を見極めながら実施できるように配慮します。できるできないの具体的な質問表についてはさっそく本を購入しました。当院での看護師によるロービジョンケアが患者さんにとってよいものになるよう努力します。
- 患者さんの心を開くために話を聞くこともロービジョンケアであることを知り、今後、私もロービジョンケアをすることが出来るかもしれない、と勇気をもらいました。
- ロービジョン心のケアは看護師の役割、ニーズの聞き取りが第一歩、適度な距離感が大事、介入のきっかけはコミュニケーション(不安・不自由を訴えてくれる信頼関係作り)
- 話しを聞くことがロービジョンケア ニーズ聞き取り、チェック項目
- 各病院におけるロービジョンへの取り組み方、アセスメントの視点、ロービジョン患者さんの院内連携と視覚障害者支援団体への橋渡しとしての看護師の重要性

- どの施設も同じような悩みを抱えている事が分かり、話を聞くこともL Vケアになる事、適度な距離感を保ちつつ、見守り支援して行くことの大切さ、医師と患者さんとの橋渡しの存在も大切である事がよくわかりました。
 - 高橋先生から、手術も患者の話を聞くことも全てがロービジョンケアであり、1対1の双方向のやりとりで苦しみを吐き出してもらうこと自体がケアであるとのお話しに看護の本質だと思いました。スタッフが日頃行っていることはロービジョンケアであることを肯定して下さったと思いました。
 - 高橋先生の看護師ができることについて述べていたこと。粟生田先生がおっしゃっていた心の距離感について参考になりました。
- 今後、今まで以上にチェックシートを活用し、会話のきっかけにしていく事例検討により多くの貴重な意見伺うことができた。

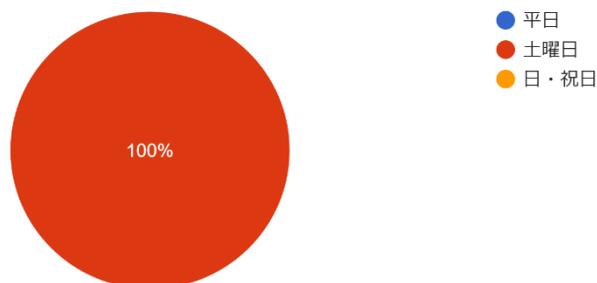
時間についてはいかがでしたか

10件の回答



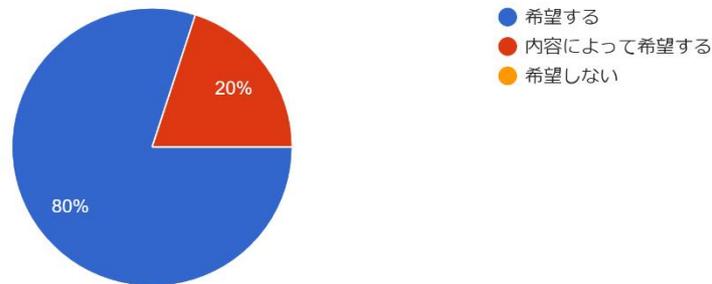
日程についての希望があれば教えてください

10件の回答



今後も意見交換会（セミナー含む）への参加を希望しますか。

10件の回答



今後ロービジョンケアについて行って欲しい具体的なテーマなどがあれば教えてください 8 件の回答

- 社会制度について 具体的な介入について
- 患者さんの困りごとを聞き取った後、それをどのように解決していったらよいか、具体的に知りたいです。私の職場はクリニックなので、病院とは違い医療連携の相談員さんはいませんので、どこに相談したらよいか、相談したらどのように解決に向けて動いていけば良いのか、実際に解決していった事例などありましたらお聞きしたいです。眼科看護師としてかなり未熟ですので、皆さんにとっては基本的なことが、私はわかっていないと思いますが教えて頂ければ幸いです。
- さまざまな症例を通し分析討論会、連携方法の実際(介入・流れ)、具体的な関わり方(コミュニケーション)、社会復帰への援助、高橋先生がおっしゃっていた「Nsに伝えたい基礎知識」
- 今回の続き
- ロービジョン患者さんを視覚障害者支援団体に紹介する際に、県外だと視覚障害者支援団体がない場合に紹介する先がなく困ったことがありました。皆様の病院ではそのような事例や対処の体験があればお伺いしたいです。また、視覚障害者支援団体を全国的な組織にする構想があったり、持ち上がったことはありますでしょうか。
- 私達はロービジョンの患者さんが入院されたらその患者さんに合わせた援助（例：トイレの導線説明、食事の形態変更及びメニュー説明、位置説明、物品の位置説明、診察時の誘導など）を実施しています。その患者さんに合わせてのため個人差もあり、全く説明を希望されない方もおられます。しかしそのような患者さんでも転倒されることがあります。つまり、看護師の状況に応じた判断が必要であり、その看護師個人の判断に委ねられている状態と言えます。【質問①】他院、他施設では、ロービジョン患者さんが入院された場合、どのような配慮（援助）がなされているか。

看護師個人に判断は任されているのか。最低限援助する項目でも決まっているのか。ロービジョン患者に日常生活での不便などはないか想いを聴き取り、何らかの援助に繋がらないかと考えて「ADL-IADL チェック表」（永野さんにお送りします）を作成したが、患者さんは自宅での生活にも入院生活にも慣れられるのが早く（個人差はあるが）、あえて不便を聴き取りすることも尻込みをしまい活用できていない状態です。外来通院時も、なかなか自分の不便を伝えるのは難しいのではないかと思います。【質問②】他院、他施設ではロービジョン患者さんの日常生活での不便などはどのように聴き取り援助につなげておられますか。以前、ロービジョングループで患者さんが集える場を設けた時に、同じ病気の者同士不便を話し合ったり知恵を教えてもらったりされていた。現在はコロナ禍で患者さんが集うことは難しい状況ですが【質問③】他院、他施設では、ロービジョン患者が集える場、語り合える場はありますか（ピアサポート）

- 視覚障害の方が利用できるサービス（行政について、同行援助など）知りたい。
- 前回の続きで、地域連携について

今後行って欲しいセミナーや意見交換会のテーマなどがあれば教えてください。例）白内障術後の焦点距離について、地域連携についてなど 6 件の回答

- 地域連携について興味があります。
- 緑内障アドヒアランス、白内障手術決定の流れ、プロトン位苦痛緩和の工夫、地域連携方法
- ロービジョン、医療ソーシャルワーカー（MSW）さんの分野かもしれませんが 状況により、どのような社会資源があるのか？など
- 診断されたばかりの緑内障患者さんに対する支援が希薄ではないかと考えております。各病院で点眼開始になったばかりの緑内障患者さんに対する点眼指導はされているかや、点眼継続困難事例に対する対処などをお伺いできれば幸いです。
- 地域連携 点眼管理が困難なケースの術後管理 糖尿病患者さんの内科と眼科の連携はどのようにしているか
- 各病院の運用や看護師の業務、視能訓練科との業務分担など 運用面での取り組みを教えてください。

そのほかご意見やご質問などあれば以下にお願いいたします 5 件の回答

- 他施設の看護師の皆さんのご意見が大変勉強になりました。今後ともよろしくお願いたします。

- 専門の先生方のご意見がなるほど！と納得できるので、一緒に意見交換できることは貴重な機会です。
- ロービジョン支援に関して、きっかけづくりが非常に大切であると分かりました。一方で、視機能看護学会に顔を出してくださる顔ぶれは一定であり、眼科看護に熱意をもって関わっている看護師ばかりではないと思います。そのため、きっかけづくりを眼科に関わる全看護師に理解を得るのは難しいのではないかと感じました。もし、可能であれば眼科看護においてロービジョンでの困りごとを聞く質問紙を統一して、誰でもロービジョンケアのきっかけづくりができるシステム作りを眼科看護業界全体で構築していくことができたなら素敵かと思いました。今回も皆様の貴重なご意見をお伺いすることができて大変勉強になりました。本当にありがとうございました。
- 初めて参加させていただきありがとうございました。大変勉強になりました。眼科看護について学んでいきたいと思います。今後とも宜しくお願い致します。